

2021(令和3)年度 部局マニフェスト

～私たちの組織使命と目標～

部局名	企画振興部
役職	部長
氏名	藤山 善之
2021(令和3)年度の抱負	新しい時代や社会の変化に対応した持続可能な伊賀市の実現を目指します



業績目標の達成状況 5. 先進的な取り組みを行い、成果があった 4. 達成水準を上回る成果があった 3. 業績目標を達成した 2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった 1. 業績目標に取り組まなかった
--

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況(自己評価)	理由
◎部局目標1	市民との協働による総合計画第3次基本計画の策定	<現在の状態> 中間案の公表、住民自治協議会への諮問、パブリックコメントによる意見募集等を行ったうえで、総合計画審議会からの答申を経て、庁内での最終的なとりまとめ作業を行っている。 ↓ <達成目標> まちづくりアンケートの満足度と参画度の平均値を前年度より向上させる。 ※目標が達成した状態 策定された第3次基本計画を各主体と共有するとともに、計画に基づいて分野別施策の取り組みが進められている。	・市民理解を深めるため、DXの考え方を取り入れ、Webの活用等により新しい基本計画を周知啓発する。 ・評価シートの見直し等により、進行管理の見え方を進める。	3	「第3次基本計画」を6月議会に提出し、可決された。 計画書については、DXの考え方を取り入れたWeb版を作成した。 まちづくりアンケートでの満足度は向上できたが参画度は低下となった。 第3次基本計画に基づく施策評価シートの内容を見直し、進行管理の見え方を進めた。
◎部局目標2		<現在の状態> 地区市民センターの指定管理を自治協が選択制で実施できる制度の構築を進めている。 ↓ <達成目標> 2022年4月から、希望する自治協による地区市民センターの指定管理が開始できている。 ※目標が達成した状態 選択制による地区市民センターの指定管理開始準備が整っている。	・議会説明を通じた制度構築と関係法規整備、予算措置、指定管理者募集、包括協定書の締結を行う。 ・事業推進にあたっては、支所や公民館再編の方向性と整合を図りながら検討を行う。	3	地区市民センターを選択制で指定管理できる条例改正を2021年9月議会に提出し、可決された。その後、指定管理者選定委員会、12月議会への指定議案を提出し、可決されたことから、包括協定締結等の諸手続きを円滑に進めた。さらに労務管理研修など指定管理導入に向けた地域へのサポートを行い、2022年4月から、8地域の地区市民センターにおいて、住民自治協議会による指定管理を開始することとなった。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
<p>◎部局目標3</p> <p>「誇れる伊賀市」「選ばれる伊賀市」の実現に向けて魅力の発信や若者の育成をオール伊賀市で取り組み、人口減少対策や地域の活性化に繋がります。</p>	<p>移住交流の促進</p>	<p>〈現在の状態〉 令和2年度の移住相談件数延1,235件、移住者数37世帯94人である。 ↓ 〈達成目標〉 令和3年度の移住相談件数、移住者数ともに前年度以上となる。 ※目標が達成した状態 移住相談件数や移住者数が増加している。</p>	<p>・移住コンシェルジュによるきめ細かな移住相談を実施すると共に、WEB会議システムを活用したオンライン相談や、地域や企業等の様々な主体と連携した人材ネットワークによる情報発信を強化する。</p>	<p>▶ 3</p>	<p>都市部での移住相談会や交流会がコロナ禍で制限されるなか、移住コンシェルジュによるワンストップ相談を中心に、オンラインでの体感型移住セミナーやオーダーメイド型移住体験ツアーなど新たな取組みを企画・実践するとともに、地域に根差した移住PR動画の配信、市内企業への移住ニーズ調査やプロモーションの実施など、地域住民や地域内団体・企業など関係人口といわれる様々な主体と関係性を構築し取組みを進めた。結果、移住相談件数、移住者数ともに前年度以上の実績となった。 〈参考〉 ・移住者数 95人41世帯(R2:94人37世帯) ・相談件数 延1,280件(R2:延1,235件)</p>
<p>◎部局目標4</p> <p>伊賀市地域公共交通計画に基づき、市民生活を支える移動手段確保を図るため、交通事業者や地域と連携し、効果的で安定した交通サービスの提供に取り組みます。</p>	<p>伊賀鉄道の活性化</p>	<p>〈現在の状態〉 鉄道事業再構築実施計画における伊賀鉄道線の収支計画と実績に乖離が見られる。 ↓ 〈達成目標〉 鉄道事業再構築実施計画の見直し後の計画が策定されている。 ※目標が達成した状態 鉄道事業再構築実施計画の中間見直しを行い、伊賀鉄道伊賀線の更なる活性化が図られている。</p>	<p>・昨年度策定した伊賀市地域公共交通計画の内容を踏まえつつ、法定協議会等において交通事業者や市民の意見を聞きながら中間見直しを行う。</p>	<p>▶ 3</p>	<p>公有民営化後5年間の利用促進や増収対策の取組みについて、評価・検証及び課題の洗い出しを行い、伊賀線の持続的な維持と更なる活性化を目指し、今後、5年間の各種施策の取組みの改善や新規施策を立案するなどの中間見直しを行った。併せて、中間見直しを踏まえた収支シミュレーションを作成し、クロスセクター効果による伊賀線の存在意義を確認した。</p>

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標5					
伊賀市が持つ文化資源を活かしながら、市民の文化・芸術の振興に取り組み、郷土愛を育むとともに、心豊かな人づくり、地域づくりを進めます。	伊賀市文化振興プランの推進	<p>〈現在の状態〉 文化振興プラン前期実行計画の策定を進めている。 ↓ 〈達成目標〉 策定した文化振興プラン前期実行計画に沿って、各種団体の取り組みが進んでいる。</p> <p>※目標が達成した状態 条例、ビジョン、振興プランが整い、市民を含め各主体が文化芸術振興の方向性を意識した取り組みが始まりつつある。</p>	<p>・各種主体との意見交換会の開催や事業カードによる各種文化芸術活動の把握などにより、プランに掲げる推進体制を具体的に進める。</p>	▶ 3	<p>文化振興プランを策定し、概要版を広報いが10月号とともに回覧するなど周知を図った。 庁内各課から事業カードの提出を受け、ヒアリングを行うと共に、文化振興審議会を開催し、今後のプランの進行管理について協議を行った。また、文化芸術関係者等を集め、意見交換を行い、文化振興に関する意見や提案を得ることができた。</p>
◎部局目標6					
「する人・みる人・ささえる人」が広がるスポーツ振興と市民・地域・団体等との協働による「三重とこわか国体」の開催を通じて、明るく活力あるまちづくりを進めます。	スポーツ施設の維持管理及び再編整備を行う。	<p>〈現在の状態〉 老朽施設を中心に改修や維持管理工事が進んでいない。伊賀市スポーツ施設再編整備計画の策定を進めている。 ↓ 〈達成目標〉 予算の範囲内で改修・整備工事が実施されている。また統廃合を行う施設については、関係者と協議が行われている。</p> <p>※目標が達成した状態 策定中の伊賀市スポーツ施設再編整備計画に基づき、スポーツ施設の長寿命化対策が行われている。</p>	<p>・対象施設について、現地調査や、関係競技団体、地域等との意見交換を行い、まずは、個々の施設の詳細な整備方針を定める。</p>	▶ 2	<p>2022(令和4)年以降の整備スケジュールについて整理を行ったが、概ね10年間における整備計画に基づく詳細な事業費の精査が出来なかった。 【廃止施設】 高尾、矢持自治協とは、計画内容及び方針について説明・協議を行い、体育施設としては廃止し、地域で活用することに理解を得られた。2022年6月1日で廃止する条例改正を3月議会に提出し、可決された。また、矢持体育館及びグラウンド跡地については、同市民センターの改修計画に併せ青山支所と協議を行い、解体後については所管替えを行うこととなった。 【整備施設】 上野運動公園競技場スコアボード改修、コロナ関連トイレ改修(青山G、いがまちSC、大山田BG)及び、寄付金によるテニスコート整備を行った。その他、上野運動公園競技場旧シャワー室の屋根防水対策を実施した。</p>

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標7			
「する人・みる人・ささえる人」が広がるスポーツ振興と市民・地域・団体等との協働による「三重とこわか国体」の開催を通じて、明るく活力あるまちづくりを進めます。	伊賀市の魅力を積極的にアピールする。	<p>〈現在の状態〉 伊賀市の魅力が、全国に伝わりきれていない。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 選手・監督、競技団体に対して、国体での伊賀市の魅力発信やおもてなしの成果を検証することを目的としたアンケートを実施し、再び伊賀市を訪れたいと回答した方が、50%以上いる。</p> <p>※目標が達成した状態 国体により伊賀市を訪れた方々が記憶に残り、再び伊賀市を訪れたいと思っている。</p>	<p>・選手・監督用に地元食材や郷土料理を盛り込んだお弁当を提供する。</p> <p>・会場では全国から訪れる競技会関係者、応援の方々に、観光パンフレットの配布やふるまいの提供を通じて伊賀市の魅力を発信する。</p> <p>・会場での手作り応援のぼり旗や花苗のプランターの設置により、来場された方々を温かくお迎えする。</p>

達成状況 (自己評価)	理由
3	<p>大会は中止となったが、決定されるまではほぼ予定通りの取り組みを行い、中止決定後は、できる限りの経費節減など臨機応変な対応を行った。</p> <p>選手・監督へ記念品として伊賀くみひも手作りミサンガと応援メッセージカードを作成したが、中止により各県のスポーツ協会へ送付し出場予定選手へ配布した。</p> <p>郷土料理や地元食材を使用した提供弁当レシピを作成したが、中止により不要となった弁当容器は市内の福祉関係団体へ寄贈した。</p> <p>選手・関係者への配布用観光パンフレット3,300部と、会場でのふるまい飲食品3,500個を手配した。</p> <p>地元小学生による手作りの応援のぼり旗94枚と、地元高校生が育てた花プランター500基で会場を装飾する準備をしていた。</p> <p>代替大会が開催された競技は、手作り応援のぼり旗の掲出や、啓発物品、観光パンフレットを配布し、伊賀市PRを行った。</p>

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
<p>◎部局目標8</p> <p>地域振興、地域課題、人口減少に対応するため、府県境を越えた近隣自治体との広域連携に取り組みます。</p>	<p>定住自立圏等の広域連携の推進</p>	<p>〈現在の状態〉 定住自立圏は、現行ビジョンのもとで各分野の取り組みを進めている。いこか連携も、ビジョンに基づいて分野ごとに連携事業に取り組んでいる。 ↓ 〈達成目標〉 「広域連携」に対する市民アンケートの満足度(19.7%)と市民参画度(29.7%)を上げる。 ※目標が達成した状態 近隣自治体との連携事業や、地域や住民同士の交流が進んでいる。</p>	<p>・定住自立圏については、さらなる連携強化に向け、住民の意見を反映させた新しい共生ビジョンを策定し、各分野の連携事業を進めるとともに、DXの手法を取り入れて情報発信や情報共有を行う。 ・いこか連携については、DX、移住、多文化といった視点を新たに取り入れる。</p>	<p>▶ 3</p>	<p>10月に新ビジョンの中間案を公表し、パブリックコメントを実施した。その後、ビジョン懇談会や推進会議での意見を踏まえ、年度内に策定した。市民アンケートでの満足度は向上できたが参画度は低下となった。市民活動での新たな連携事業により団体の交流が行われた。</p>
<p>◎部局目標9</p> <p>市民の市政参画の創出と情報発信力の強化により、市政への理解と協働のまちづくりを進めます。</p>	<p>伝える広報から伝わる広報へ</p>	<p>〈現在の状態〉 令和2年度「市民まちづくりアンケート調査」の広聴広報にかかる満足度51.2% ↓ 〈達成目標〉 令和3年度上記調査における広聴広報にかかる市民満足度52%以上 ※目標が達成した状態 広報いが、行政情報番組、ホームページ、SNS等の情報発信機能が充実され、市民が必要とする情報が多くの人に共有されている。</p>	<p>・広報に関するアンケートを実施し、市民のニーズを把握するとともに効果的な情報発信を検討する。 ・広報媒体の連携や紙面・画面・番組編成の工夫、YouTubeによる動画配信など、市民目線で分かりやすい情報発信に取り組む。</p>	<p>▶ 3</p>	<p>広報紙の記事に二次元コードを掲載しホームページのより詳細な記事に誘導するほか、ケーブルテレビの行政情報番組をYouTubeで動画配信するなど、メディアミックスに取り組んだ。 ホームページは「やさしい日本語」での表示機能を追加し、多言語翻訳にAI機能を取り入れるなど、ウェブアクセシビリティの向上を図った。行政情報番組は市民スタッフの採用や「こどもアナウンサー」による放送を行うなど、分かりやすく親しみやすい番組づくりを行った。 広報紙は外部人材の助言を受け、より良い紙面構成や見せ方について検討し、分かりやすい紙面づくりに取り組んだ。 広報に関するアンケート調査を実施し、効果的で効率的な情報発信について検討した。 広聴の新たな手段として、e-モニター制度の運用を開始した。</p>